

# たろろ

TAKUSUI  
No. 782

12  
December.2021

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



令和3年度「ひょうご海の子作品展」 絵画部門兵庫県知事賞

## 特集 「豊かな海」の実現に向けて 海の栄養塩類とイカナゴ漁獲量の関係

### CONTENTS

- 2 ようそろ  
淡路市西浦沖でノリ養殖用ロープの切断被害が発生
- 3 JF但馬津居山支所 事務所移転  
JF家島 新事務所完成
- 4 淡路水交会「漁業者による森づくり活動」  
海へ届け! かいぼりプロジェクト
- 5 大輪田塾だより
- 6 特集「豊かな海」の実現に向けて
- 8 第61回 兵庫県漁港漁場大会決議事項の実現を要望
- 9 但馬産松葉ガニ普及推進協議会 フォトコンテスト開催中
- 10 兵庫JCC通信
- 11 旬に想う  
「ひょうご海の子作品展」

# ようこそろ

「ようこそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときのみ令として使われる」

## 私にとっての「大輪田塾」 大輪田塾第1期生 竹中 達彦



自分がまさか拓水の「ようこそろ」に寄稿するとは……。大輪田塾生があるそうで！修了生の皆さん準備しておいて下さいね。私は高校卒業後、バブル絶頂期の平成2年に坊勢漁業協同組合に入組しました。

漁業協同組合の業務は、魚介類の販売、石油・漁業資材・水の供給、漁船の保全施設の運営、生命共済、漁業共済、漁船保険業務等多岐にわたり、かつ、それぞれの業務に専門的な知識が必要となり、「一人前の漁協職員」になるには多くの時間を要します。

私は、全国漁業協同組合学校で協同組合について学び、協同組合の目的である「組合員への直接の奉仕」を忘れず、「自分に来ることはやる。」をモットーに勤務しておりますが、最近では、通常業務に加え、様々な補助事業への対応が求められる、組合員のニーズに対応するのが、より困難な時代に突入したと感じております。

さて、「大輪田塾」についてですが、入組してから十六年目、漁業協同組合について何となく理解出来始めた頃の平成17年、突然当時のU組合長から、「こんな場が出来からお前が行って勉強してこい」と言われました。何の勉強に行けと言われたのか分からず、要綱等を確認したところ、「浜のリーダーを育てる」ことを目的とした塾に職員である私に行けということでした。私は、U組合長に「職員が行くような塾ではありません。まして第一期生はダメです。」と言いましたが、U組合長をご存じの方なら想像がつくと思いますが、聞いてくれるはずもなく、面接を受けたこととなりました。組合長に言っても無駄(笑)なので、当時兵庫県漁連参事、現専務の突々さんに、「職員が第一期生として入塾することは想定外」として不合格にしていただこうと考え、お願いしたところ、「何を言ってるの？組合長が薦めてくれたのに」と一蹴され、入塾させていただくことになりました。実際、講義等で同期の皆さんとお会いすると各浜から論客が集まっており、どの講義でも必ず積極的に質問され、何事に対しても前向きな方々で、講義を終え帰宅する車中で「もっとしっかりしないといけない」と反省していたことを今でも鮮明に記憶しております。

同期に限らず、修了生の方々も、大輪田塾の目的どおり「浜のリーダー」として組合長や理事・監事に就任され、活躍されており、一修了生としても非常にうれしく、また、頼もしく思います。漁業を取り巻く環境は年々厳しさが増し、船曳網漁業ではイカナゴ資源の減少、ノリ養殖漁業では栄養塩不足、カキ養殖漁業では貝毒、底曳網漁業では後継者不足、どの漁種も問題が山積しております。これに加え大輪田塾が発足した当時には存在しなかった「コロナウイルス」への対応があり、今後更に漁業経営が困難になることが予測されます。

漁業法も改正され、民間の参入を意識せざるを得ない今、県下全体であらゆる面から検討すべき時期にきていると感じております。その時に機能するのが人材のネットワークである「大輪田塾」であると思います。

私にとって大輪田塾は、消極的にスタートしましたが、各浜に信頼できる「かけがえのない仲間」ができ、同期の飲み会等で会うと「もっとしっかりしないとイケない」と今でも刺激を受ける存在となっております。また、「浜のために、やれることはやる」という想いの原動力になっております。漁業者、系統職員、漁協職員、大輪田塾に入塾を迷っている方がいらつじやいましたら、是非、入塾をお勧めします。

## ノリ養殖施設を船舶通過か？

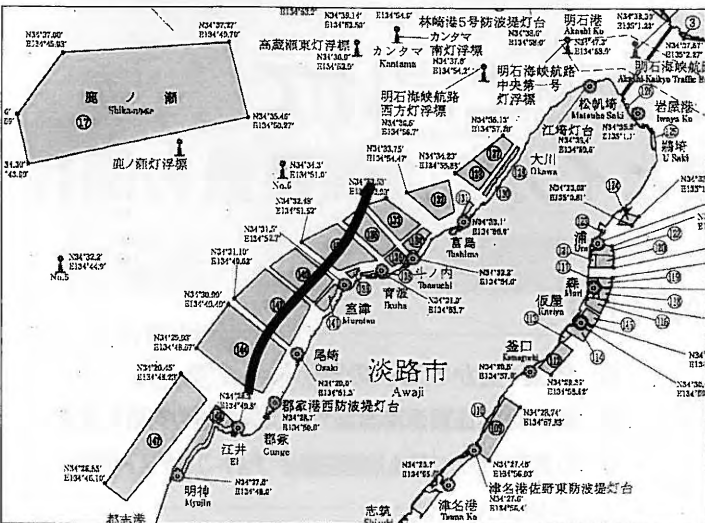
### 淡路市西浦沖でノリ養殖用ロープの大規模切断被害が発生

ノリ網の設置を目前に、ノリ網を固定するために設置されていたロープが淡路市一宮町沖から浅野浦沖にかけ約15キロの範囲で切断されていきました。

12月2日にJF室津浦の漁業者が沖での作業中にセットの異常を発見した事を受け、西浦水交会(社領弘会長 JF一宮町)が緊急会議を開催、神戸海上保安部の調査によりJF一宮町、JF室津浦、JF育波浦、JF浅野浦の4漁協のノリ養殖施設に被害が及んでいるのが確認されました。

引き裂かれたロープは漁業者により即席で修理されたが、「強度に不安があるため来年5月まで養殖が出来るか心配である」との声もあり、本格的なノリ養殖開始前の被害に漁業者は憤りを隠せません。

12月6日現在、神戸海上保安部では、被害にあった漁場を通過した船舶が無いかなどの調



郡家沖から斗ノ内(浅野浦)沖にかけ、被害が発生

査を行っています。また、同水交会では、12月6日に会議を開催し、漁場を監視出来るカメラの設置などを含め、事故防止策の検討が行われました。社領会長は、「漁業者はノリ養殖に向け、9月頃から準備を進めてきた。ノリ養殖の開始を目前に、これまでにない被害が発生したことは非常に残念である。一刻も早く原因を究明するとともに、今後、漁業者が安心してノリ養殖を行えるよう、事故防止に向けた検討を行いたい」と話されました。

## JF但馬津居山支所事務所移転 鮮魚販売店と支所機能を集約し効率化を図る



令和3年11月1日、JF但馬津居山支所は、鮮魚販売店と支所機能を集約して職員の連携強化と業務の効率化を図るため、既設の漁具倉庫を改修し、支所の各課（庶務、販売、購買）と鮮魚直売店「フィッシャーマンズビレッジ」を1か所に集約し移転オープンしました。同漁協上垣 健治理事は、「鮮魚販売店へ団体客が訪れた際には、近くの津居山支所から職員が応援に駆けつけていたが、職員

を集約することで状況に応じた対応が出来る。鮮魚販売店は旧店舗の4分の1程度に縮小したが、カニやホタルイカ、ハタハタなど地元で水揚げされる魚の美味しさを観光客などにPRしていく。」と話されました。

また、同支所の移転に伴い、JF兵庫漁連津居山油槽所及びJFなぎさ信漁連津居山営業所も同建物内に移転しました。

新住所 〒669-6122  
豊岡市瀬戸77番地の21  
\*電話・FAX番号に変更はありません。



鮮魚販売店（フィッシャーマンズビレッジ）

## JF家島 新事務所完成



JF家島（中村利公代表理事組合長）は、事務所の老朽化（築55年）に伴い建替え中であった新事務所が完成し、令和3年11月30日（火）に関係者へ披露されました。

新事務所は、平屋建てで建造されており、地震時の耐震性能の向上、人の移動の簡略化が図られています。事務所内もコピー機や収納スペース等がアクセスしやすい場所に配置されるなど、業務の効率化が図られています。

### 《概要》

敷地…地番／  
姫路市家島町宮1-10-1  
面積…338.16㎡  
建物…構造／鉄骨造 平屋建て  
竣工…令和3年11月30日  
\*住所・電話・FAX番号に変更はありません。



事務所内

# 淡水水交会「漁業者による森づくり活動」

## 淡路島内漁業関係者など70名がウバメガシを植樹

一般社団法人淡水水交会（東根壽会長）が主催する「漁業者の森づくり」が11月9日（火）南あわじ市の山林で行われ、ウバメガシ300本を植樹しました。

この活動は、漁業者がウバメガシや間伐材を使った「柴漬け」による産卵床の設置によりアオリイカなどの水産



資源の増大を図る活動と、一般県民と力をあわせた漁業者の森づくり活動を連携して行い、環境保全と地域貢献を図るもので、今回で13回目となります。

コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年も規模を縮小し、島内JF役員、漁青連、女性連のほか、行政や系統団体職員を加えた約70名が集合しました。参加者らは植樹手順の説明の後、用意した苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、植樹しました。

豊かな海の再生に向けて、また、アオリイカ増殖に繋がる「森づくり」事業は、今後も淡路の各地で展開されていきます。

# 海へ届け! かいぼりプロジェクト

明石浦漁業協同組合（戎本裕明代表理事組合長）と東播磨県民局が連携し、海の栄養を回復するための取り組みを広く知ってもらうため、豊かな海への漁業関係者の思いを盛り込んだ紹介動画「海底耕耘（こううん）プロジェクト編」に続き、第2弾「かいぼり」プロジェクト編が完成した。

私たちは自然の恵みに今日も生かされて、自然の恵みに感謝しながら、生態系の維持こそが、漁生がすること。かけがえのない生きた海を取り戻すために、私たちが、ため池のかいぼり、一斉放水を行います。

海を取り戻すムービーはこちら



## 海を取り戻すムービーはこちら

海底耕耘のムービーはこちら

豊かな海へ

いざ、耕す

海底耕耘



### 海のまち・明石

兵庫県明石市は古来より漁業が盛んで、「海のまち」として知られています。明石浦漁業協同組合では昔ながらの漁業を継承し、100種類もの魚が水揚げされています。



### 海はきれいになったが...

1970年代後半の公害で汚れた、1970-80年代に「きれいな海」を取り戻そうと、事業活動や自然の力を活用してきれいになった海が、徐々に汚れてきました。今後は底層やリンなどの栄養塩が不足し、リンが減少する「色落ち」や藻類の減少など新たな問題が発生しています。

### かいぼりプロジェクト

「きれいな海」から「豊かな海」へ、これまで漁業者と関係者が連携し、ため池の「かいぼり（海下）」や一斉放水を行っています。県・市の漁業、観光、教育、地域住民も協力し、関係者、漁業関係者に呼びかけます。



### かいぼりとは

自然にたまった水や土、湖底の泥や藻、ため池の底層を、農機具が中心となり行ってきた作業。兵庫県には全国最多となる約1万平方メートルの面積があります。池底に沈積する土壌には窒素やリンなどの栄養塩が多く含まれていることから、リンの供給が不足し、リンが減少する「色落ち」や藻類の減少など新たな問題が発生しています。

### 豊かな海を目指して

明石浦漁業協同組合は、かいぼりのほかにも、底層環境の改善を図る「海底耕耘」、二重底の改良など、関係者で連携して海の栄養を回復するための取り組みを行っています。未来を担う若手も、できる活動を行っています。



海の豊かさを守る SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 明石浦漁業協同組合 兵庫県東播磨県民局

# 大輪田塾だより

## 令和3年度大輪田塾修了式ならびに入塾式開催 修了生5名、入塾生4名

修了生の紹介

氏名(期)	所属
竹内 佑騎 (14期生)	J F相生
清水 琢人 (15期生)	J F明石浦
永松 航 (15期生)	J F坊勢
濱田 直樹 (15期生)	J F淡路島岩屋
藤原 聡志 (15期生)	兵庫県漁業共済組合

(敬称略・順不同)



修了生の記念撮影

(前列左から：永松さん、藤原さん、濱田さん、東根塾長、田沼県漁連会長、中岸水産課長、清水さん、竹内さん)

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾は、11月2日(火)に神戸市内のホテルで、令和3年度大輪田塾修了式ならびに入塾式を執り行い、14期生1名、15期生4名が修了するとともに、17期生となる新入塾生4名が入塾しました。

東根 壽塾長(兵庫県水産振興基金理事長)、泉水産課 中岸 明彦課長をはじめ

このあと兵庫県全国豊かな海づくり大会推進室 室長 長島 浩氏による記念講演「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」御食国ひょうご」と豊かな海づくりの取り組みについて」が行われました。令和4年11月13日に明石市で開催される全国豊かな海づくり大会兵庫大会にむけた取組や食糧養化が進んだ海を改善し豊かな海を再生するための取組などに関して話されました。

修了生のこれからの活躍を祈念するとともに、新たに加わった17期生の塾での頑張りに期待します。

め、同塾運営委員、県・系統役員職員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ東根塾長から修了証書を手渡された後、「決意の言葉」を述べました。その後、16期生 高濱 功匡さん(J F林崎)からの「送る言葉」を受けた5名は決意を新たに修了しました。

続いて行われた入塾式では、新入生代表の糸谷 謙一さん(J F兵庫)が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、16期生 高瀬 晃さん(J F飯屋)から歓迎の言葉が贈られました。式は、東根塾長の訓辞のあと、来賓の泉水産課 中岸課長、J F兵庫漁連 田沼 政男会長から祝辞を頂き、終了しました。



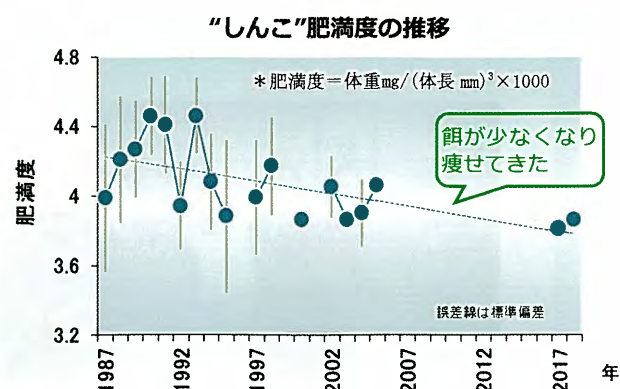
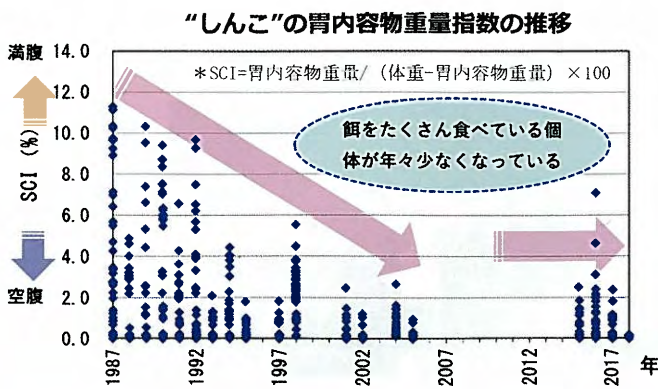
入塾生の記念撮影

(前列左から：高橋さん、糸谷さん、東根塾長、田沼県漁連会長、中岸水産課長、久留嶋さん、林さん)

入塾生の紹介

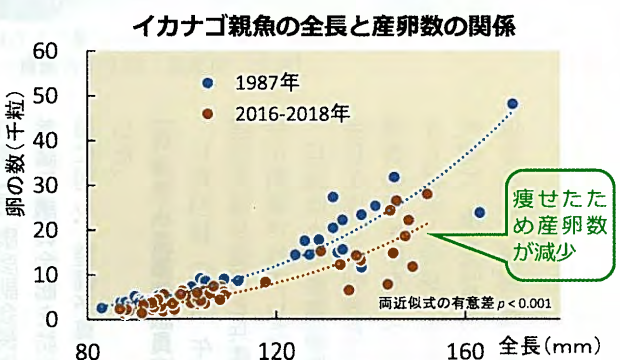
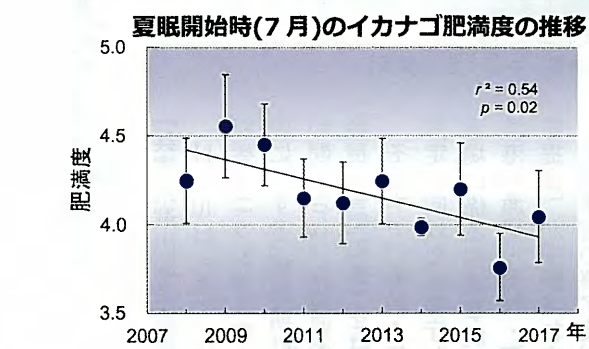
氏名	所属	漁業種類
糸谷 謙一	J F兵庫	船びき網
久留嶋 継光	J F林崎	漁協職員
高橋 夏輝	J F東二見	漁協職員
林 大雅	J F坊勢	カキ養殖

(敬称略・順不同)



**【夏眠するイカナゴが痩せてきたため産む卵の数が減っています】**

全長10cm程度に成長したイカナゴは6月下旬～7月上旬から砂に潜って夏眠に入ります。夏眠中は餌を食べませんが、夏眠明けの12月には産卵直前の状態まで成熟します。このため、夏眠に入る7月までに餌をたくさん食べて、体に十分なエネルギーを蓄えておく必要があります。しかし、夏眠開始期の7月の肥満度を調べたところ年々低下していることが明らかになりました。また、肥満度の低下によって、親魚が産む卵の数が3割ほど減っていることも分かりました（再生産力の低下）。

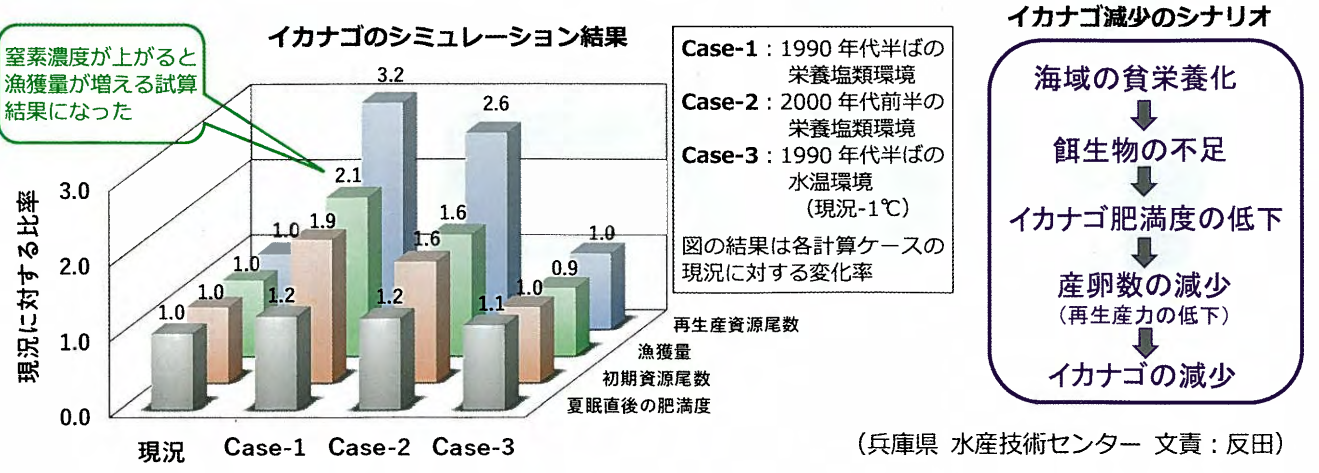


**【生態系モデルを用いて過去の栄養塩類環境を再現し、イカナゴ漁獲量の変化をシミュレーションしました】**

豊かな瀬戸内海再生調査事業では、調査で得られたデータの分析に加えて、生態系モデルである「大阪湾・播磨灘イカナゴ生活史モデル」を開発し、栄養塩類環境の変化によってイカナゴの漁獲量がどのように変化するかをシミュレーションしました。その結果、現在よりも栄養塩類濃度が高い条件下において、イカナゴ漁獲量が増加することが確認されました。また、水温を1℃下げた条件下では漁獲量に大きな変化は見られませんでした。

**【イカナゴ減少のシナリオを提示しました】**

以上から、貧栄養化→餌不足→肥満度の低下→親魚の産卵数の減少（再生産力の低下）のプロセスがイカナゴ減少のシナリオと考えられました。これらの結果はパンフレットに取りまとめて関係機関に配布しました。成果の一部は令和2年版水産白書で紹介されるとともに環境省の目に留まり、直接、環境大臣に成果を説明する機会を得ました。豊かな海の再生に向けて多少なりともお役に立てたのではないかと考えています。今後、栄養塩類環境の改善対策が進み、漁業者の資源管理と相まってイカナゴ資源が大きく回復することを願っています。



(兵庫県 水産技術センター 文責：反田)

**特集**

**「豊かな海」の実現に向けて**

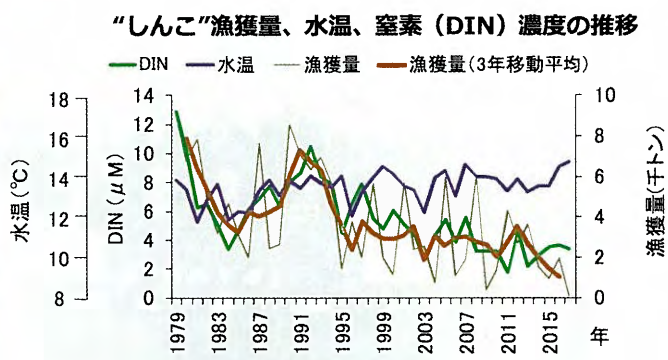
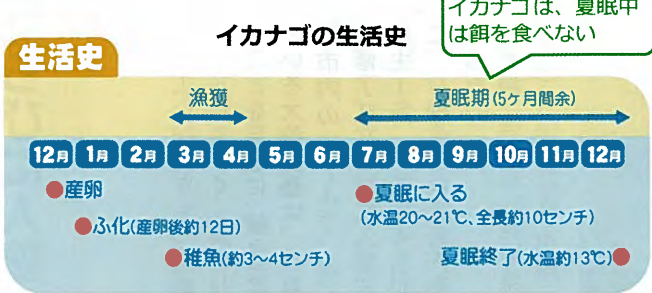
**第1部 栄養塩類管理制度創設までの軌跡**

県水産技術センターは、本県の代表的魚種であるイカナゴを対象に調査研究（豊かな瀬戸内海再生調査事業：平成27年～令和元年）を行い、栄養塩と漁獲量の関係を明らかにしました。

**⑤海の水質とイカナゴ漁獲量の関係**

**【“しんこ”漁獲量は窒素濃度の低下とともに減っています】**

イカナゴ“しんこ”の漁獲量（主要地区）と窒素濃度（DIN：溶解態無機窒素）は1990年代以降同調しながら減少が続いています。この間に水温も上昇していますが、統計的な分析から、漁獲量の減少は窒素濃度との関連がより強いと考えられました。

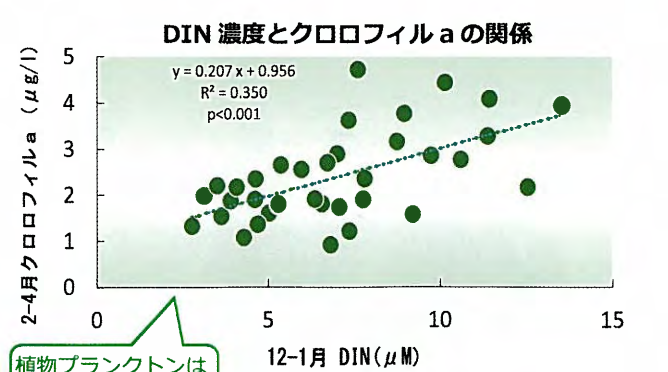
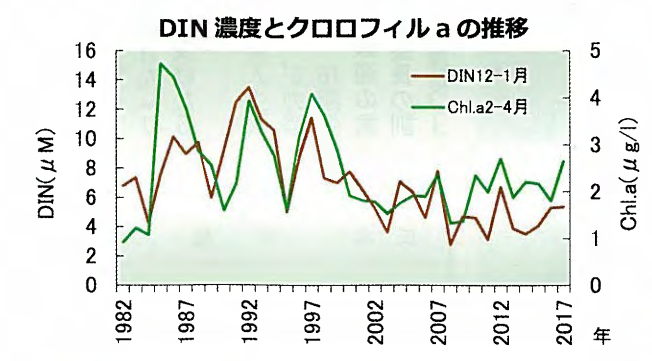


**【“しんこ”の餌が減ってきています】**

漁業者の皆さんへの聞き取りから、近年の“しんこ”の釜揚げは“青すじ”ばかりで、餌の動物プランクトンをたくさん食べている“赤はら”が少なくなっていることがわかりました。



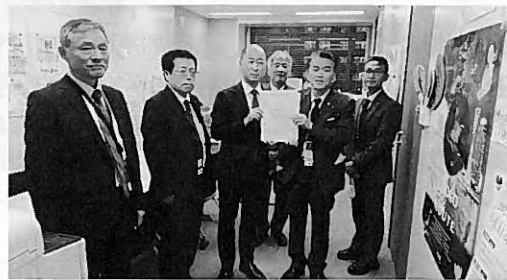
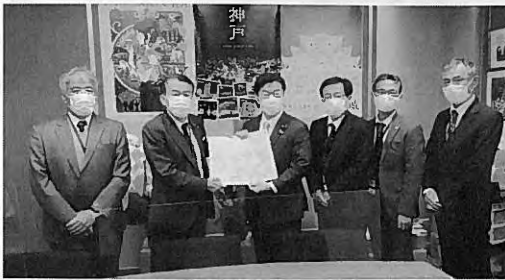
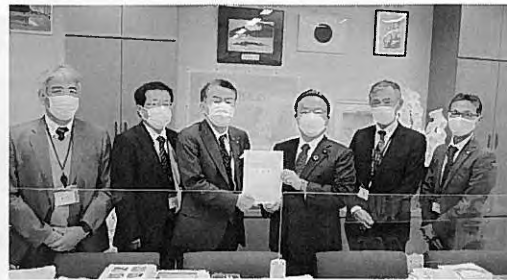
“赤はら”が少ないのは動物プランクトンが減っているためと考えられます。そこで、動物プランクトンの餌である植物プランクトン量（指標はクロロフィルa）と窒素（DIN）濃度の関係を調べました。その結果、冬季（12～1月）のDIN濃度が高い年は春季（2～4月）の植物プランクトン量が多いことわかりました。



**【餌が減ったため“しんこ”は痩せてきています】**

水産技術センターには長期間の動物プランクトン量のデータはありませんでした。そこで、30年前から保存されている“しんこ”のホルマリン標本の胃内容物を調べました。その結果“しんこ”が食べている餌の量（動物プランクトン）は大きく減少していることがわかりました。また食べる量が減ることで、同じ期間の“しんこ”の肥満度も低下していることがわかりました。

## 第61回 兵庫県漁港漁場大会決議事項の実現を要望



直接要望書をお渡しした地元選出の国会議員の先生方  
【左上：関議員・右上：谷議員・左下：加田議員・右下：宮崎議員】

### 「兵庫県選出国會議員への予算要望活動」

11月10日（水）、午後1時から東京都港区東新橋のニッショーホールにおいて、漁港漁場整備に関する「新長期計画策定に向けた全国集会所」が開催され、兵庫県漁港漁場協会から浜上勇人会長（香美町長）をはじめ5名が参加しました。

その中で、令和4年度から始まる新長期計画策定に向けた水産庁との意見交換や全国の漁港漁場に係る先進事例の発表の後、「令和4年度漁港・漁場・漁村・海岸整備予算の確保に関する提言」が採択されました。

全国集会所の終了後、(1)全国集会所で採択された提言 (2)第61回 兵庫県漁港漁場大会で決議された4項目について、浜上会長、山名淡路市副市長（門康彦副会長代理）及び県関係者が衆参議院議員会館を訪問し、兵庫県選出国會議員に対し、整備予算確保等の要望活動を行いました。

### 「兵庫県水産振興議員連盟役員との懇談会開催」

11月24日（水）、午後0時30分から兵庫県水産振興議員連盟と兵庫県漁港漁場協会との懇談会が開催されました。

兵庫県水産振興議員連盟からは、永田秀一会長をはじめ副会長、事務局長、幹事の7名の議員のご出席をいただき、兵庫県漁港漁場協会からは浜上会長、山名淡路市副市長（門副会長代理）、事務局長の3名が出席しました。兵庫県からは、萬谷 信弘農林水産局長、前川 広治



兵庫県水産振興議員連盟への要望と意見交換

漁港課長、望月 松寿水産課資源増殖室長の出席をいただき、8月24日付けの第61回 兵庫県漁港漁場大会において書面決議された「漁港漁場整備長期計画の推進と令和4年度予算の確保」など4項目の決議事項の実現に向けて、浜上会長から永田会長に要望しました。引き続き、漁港漁場の整備だけでなく、資源管理・担い手・消費流通等幅広いなどについて熱心な意見交換を行うことができ、有意義な懇談会となりました。

（兵庫県漁港漁場協会）

## 但馬産松葉ガニ普及推進協議会 フォトコンテスト開催中!

但馬産松葉ガニ普及推進協議会では、松葉ガニの一大産地「但馬」を知っていただき、また当地にカニを食べに来ていただくため、但馬と松葉ガニの魅力を発信するパンフレットの作成・配布にあわせてフォトコンテストを開催中です。

松葉ガニ料理を囲んで、ご家族やご友人と楽しいひとときを過ごされている写真など、但馬産松葉ガニにまつわる素敵な思い出がまつまったお写真をお待ちしています。



Instagram



ホームページ

### 1. 募集期間

令和4年4月30日(土) 必着

### 2. 募集内容

- ①豊岡市、香美町、新温泉町内の宿泊施設および飲食店で提供されたズワイガニ(松葉ガニ・セコガニ)の料理と一っしょに写っている写真
- ②風景や人物など一っしょに但馬産松葉ガニ(タグ付きの津居山かに、柴山かに、香住港まつばかに、浜坂産松葉かに)が写っている写真

### 3. 賞・賞品

- ・秀 大漁満足賞、満腹感謝賞、旅情満喫賞(各1名)  
但馬産松葉ガニ(タグ付き)4ブランドセット(4匹)
- ・優 10名  
但馬産松葉ガニ(タグ付き)1匹
- ・良 50名  
水産加工品などつめ合わせ(3,000円相当)



パンフレット

### 4. 応募方法

#### ①Instagram

Instagramをインストールし、スマートフォン、パソコンから但馬産松葉ガニ普及推進協議会公式アカウント(ユーザー名:matsuba\_crab\_from\_tajima)をフォローした後、ハッシュタグ「#ひょうご但馬産松葉ガニ」をつけて投稿

#### ②ホームページ

<https://tajima-matsubagani.wixsite.com/official>にアクセスし、News欄から応募

### 5. その他

詳しくは上記ホームページの募集要項またはパンフレットを参照(県但馬水産事務所)



## 兵庫県内協同組合職員の交流～虹の仲間づくりカレッジ活動～ 令和4年1月29日(土)にオンラインで学ぶ親子防災教室を開催

兵庫県の生協・農協・漁協・森林組合で構成する兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)では、協同組合の次代を担う職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会の中で果たすべき役割をともに考え、実践し、協同組合間協同を実現することを目的に、様々なテーマを設定し、企画・実施する「虹の仲間づくりカレッジ」を平成27年から実施しています。

今年度、テーマの一つに挙げられている「組合員・地域の方に防災意識を高めてもらうオンラインセミナー」が次のとおり開催されます。

### 1. セミナー内容

オンライン会議システム「Zoom」を使って、親子で学べる防災教室を開催。福祉防災上級コーチの湯井恵美子さんから「子どもができる防災」についての話を聞きます。また、「津波や高潮など海の危険」や「ローリングストック」など、この機会に家族で防災について考えてみる。

2. 日 時 令和4年1月29日(土) 午前10時30分～11時30分

3. と ころ 自宅など(オンライン)

4. 対 象 小学生と保護者

5. 定 員 50組(申し込み多数の場合は抽選)

6. 参 加 費 無料

7. 申 込 び 右のコードから

申し込み期間(令和4年1月5日(水)～令和4年1月20日(木))





## 持続可能な地域農業へ向け、 地域全体で農業戦略を図る

JAハリマでは、ブランド米「伊和の里」をはじめとする水稲や黒大豆などの栽培が盛んに行われています。しかし、近年は地区内の高齢化が進み、65歳以上が地域人口の40%以上を占め、農業従事者が年々減少するとともに、耕作放棄地が増加しています。

宍粟市一宮町伊和の岡田浩樹さんは、地域の生産者が耕作できなくなった農地を守り、地域農業に活力をつけたいという思いから、家業を受け継ぎ、3年前に専業農家となりました。所有している農地に加え、耕作が困難となった農地を請け負い、水稲6haをはじめ、黒大豆1ha等を家族とともに栽培しています。

岡田さんが今後の農業経営を行ううえで大きな存在となるのが、JAハリマー宮農経済センターの井口尚洋さんです。井口さんは、購買事業を担当するとともに、営農指導員として水稲や黒大豆の栽培方法の助言や経営計画の相談業務を行います。今年度は岡田さんが、兵庫県が認証する『ひょうご安心ブランド』を取得し、特別栽培米の生産に最も力を入れていることもあり、販売先の確保と販売促進など経営計画を実践するにあたり、積極的にアドバイスを行っています。井口さんは「多様な生産者のニーズに応えていけるよう、JAだけでなく、行政や関係組織と連携して、地域全体で取り組んでいきたい」と話します。

JAハリマは、持続可能な地域農業を構築するために、JAと生産者が一体となって生産・販売戦略を考え、さらに地域の関係組織と共有することで、新規就農者の育成や生産拡大に取り組んでいます。



収穫前の黒大豆の生育状況を確認する岡田さん(左)と井口さん

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## 生活問題研究会 「農福連携」をテーマに 現地視察を実施

兵庫県生協連は、1991年から「生活問題研究会」を設置しています。研究会では、「消費者の権利を守り、豊かな暮らしを実現するために生活者の立場から提言すること」を目指して、生活者の視点でテーマ設定のうえ調査研究を進めており、2021年度は「農福連携」について取り上げています。7月に講義を受け、10月26日(火)に現地訪問し視察見学をしました。

最初に「花卉園芸 長谷川」(三木市吉川町古川)を訪ね、ハウス内にドリップ式の野菜栽培ベンチを取り入れ、ミニトマトやベビーリーフ等の野菜苗床で通年受け入れの工夫をされている様子を見学しました。「5年経過してパート雇用にもつながりましたが、これからは関係機関とのつながりの必要を感じています。」とのお話があり、活発な質疑応答の時間を持ちました。



参加者に説明する長谷川いずみ様(中央)

その後、「みずほ協同農園」(三木市細川町瑞穂)を訪ね、エコファームセンター、コープ土づくりセンターの説明後、施設外就労を受け入れているハウスを見学し、「仕事ができる場所がある」ということが大切」とのお話をうかがいました。

具体的な活動の様子を自身の目で見て感じながら、そこから生協としてできることを考えていくきっかけ作り、農福連携に取り組む意義やメリット、課題などについて学ぶことのできた一日となりました。



みずほ協同農園

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



### 表紙の言葉

## 令和3年度「ひょうご海の子作品展」絵画部門兵庫県知事賞

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育ててもらうため、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集し、作文281点、絵画432点のご応募をいただきました。9月7日に絵画部門、9月10日に作文部門、の最終審査会を行い、絵画部門において、兵庫県知事賞を受賞された、多可町立中町北小学校2年生 安平悠真さんの作品です。【関連記事 11、12項】

# 旬に想う

写真と文  
遊方子



## 仰げば尊し...

◆木下恵介監督の『二十四の瞳』を観たのは、学校からの授業の一環として行った町の映画館だった。大人になった教え子らが、高峰秀子の女先生を招んで、ピカピカの自転車を贈る場面に思わず涙が出た。止め度なく溢れた。回りの皆も泣いていた。これは泣ける映画だ。そして泣ける歌が『仰げば尊し』だった。我が恩師を思う時、卒業式に皆で歌いながら泣いた名曲であるが、最近はこの歌を使わないそう。先生と生徒は対等だから、仰ぎ見たり尊いと思うのは、旧時代の遺物という事から歌わなくなったという。教える師と教えられる者が同等である筈が無い。尊敬を表せぬ歪んだ考え方は間違っていると思う。

◆童謡や唱歌は文語文も多く、改めて歌詞を見てみると、現代とは違う表現が多々あり意味も理解不能になって仕舞う。『眠る杯』や『怖い蟹』の如く永い間勘違いのまま過ごしたりした。今の世、何事にも感謝するという気持ちも薄くなっている。戦後の物資不足を過ごした者には、まるで夢のような品物の大洪水である。豊富に物資が溢れて飽和気味の昨今、有り難味や値打ちが判らなくなっている。毎日の食べ物や衣類も、必要品は何でも揃っている時代である。

◆「またネ、うん連絡スル」と別れの言葉で少しテンションを上げていう。扉が閉まり電車が動く。丸で別人のように冷たく澄ました顔になる。社交辞令と本音の顔の違いだろうか、何か怖れる気持ちになった。電車やバス、図書館、病院、スーパーの売り場で、子供が騒いだり走り回ったりする光景を見る。親が周囲に対し申し訳なさそうにするならまだしも、公共の場で走らない騒がないという常識を、親の威厳で幼いうちに教えるべきなのに教えない親が多い。幼時から公共の場に連れて行く事は大切で、子供に『常識』を伝える親の義務を果たす良いチャンスなのを忘れている。善悪の判断こそ重大で、子供を躾けるのは学校で無く、家庭であり親の責任だ。親の顔が見たいという陰口もある。

◆親の恩というのは、山より高く伸し掛かり海より深いから溺れそうになる。非常に厄介なものだが、私は七歳の孫に「雷サンは怖いねんでエ」と叱られた。雷鳴を聞きつつ畑仕事を終わらせようとした無謀な行為を、真剣な口調で諫めていた。今も笑い話のタネだ。『負うた子に教えられ浅瀬を渡る』という。橋の少なかった時代の比喩で、浅瀬を渡る事など現代では考えられないが、西洋では『ひよこが親鳥に助言する』という。外孫は夏休みと正月に泊りがけで遊びに来る、グーンと背が伸びるを羨んで、その度に大人へ近づくの目に見えて判る。爺いは仰ぎ見て大変に嬉しい限りなのだ。

# 令和3年度 「ひょうご海の子作品展」 受賞者決定!!

### 【作文部門】

「ひょうご海の子作品展」の作文部門で入選した皆さんをご紹介します。

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	姫路市立坊勢中学校	2	桂 茉瑚	きれいな海とゆたかな海
明石市長賞	明石市立大観小学校	5	森尾 大翔	ぼくの漁師になる道
兵庫県教育長賞	神戸市立高倉中学校	1	加藤 日果	海の生物と私
JF兵庫漁連会長賞	姫路市立坊勢中学校	2	上田 梨愛	私がいまできること
	新温泉町立浜坂西小学校	5	中村 結愛	ぼう覧者にはならない
JF兵庫女性連会長賞	淡路市立学習小学校	6	広岡 彩佳	安全でおいしい魚を食べるために
	明石市立錦浦小学校	6	松本 望紀	打ち上げられた漂流物(ウニとゴミ)
JFなぎさ信漁連理事長賞	神戸大学附属小学校	3	林 美羽	人魚のひみつ
	神戸市立高倉中学校	1	嶋田 菜那	環境問題と広い海と私たち
農林中央金庫大阪支店長賞	明石市立中崎小学校	4	川村彩加里	海辺のゴミ
	淡路市立学習小学校	6	松下 心音	海のヒーロー

※紙面の都合上、佳作は紹介しておりません。

(兵庫県知事賞の作文は12ページに掲載しています)

○JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載! ([https://www.seat-sakana.net/uminoko\\_sakuhin/uminokosakubun\\_r3/](https://www.seat-sakana.net/uminoko_sakuhin/uminokosakubun_r3/))

きれいな海とゆたかな海

姫路市立坊勢中学校 2年 桂 茉莉

私が住む坊勢島では、住民の約七割が漁業に携わり、水揚げ量、金額ともに兵庫県下で一、二位を争うほどの漁獲量を誇っている漁業と深く関わりのある島です。そして、ぼうぜ鯖、ぼうぜ蟹などブランド化もされている魚もありません。

そんな坊勢の漁業ですが最近では坊勢の魚が減少が発生しています。その理由は、魚がプラスチックを食べて死んでしまつたこととありますが、一番の理由は、坊勢の海がきれいすぎて栄養分がないことです。栄養分がないと魚がやせたり二枚貝が育ちにくくなります。今、瀬戸内海は魚介類が育ちにくい海になつてきているそうです。昔は陸から川を通じて沢山の栄養が海に流れこんでいました。しかし、排水規制の強化、農地の減少、下水道の普及などで海に流れ込む栄養は年々減少しています。栄養がないと魚は大きくなりにくいし、育ちにくいのです。だから、農業者と漁業者によるかいほりや海底耕耘、漁業者の森作りなどを実施しているそうです。

そんなことをしても変わらないんじゃないか、という人もいるかもしれませんが、農業者と漁業者によるかいほりの理由としては、栄養を豊富に含むため池の水や泥を河川を通じて海へ流すことで海苔養殖への栄養供給につながります。栄養塩がないとりの色が黒かったのが色落ちしてしまいます。色落ちする原因が栄養塩だと知ってとてもびっくりしました。

海底耕耘とは、底質環境を改善するため、漁業者が漁船で爪のついた専用のケタをひき海底を耕します。これにより海底をやわらかくして二枚貝などの海底にいる生物が生息しやすい環境を作り、またしずんでいる栄養塩を海中にまきあげるといった効果があります。

森作りについては、森を作つてその森から川を通じて運ばれる栄養が豊かな海を育むことから「豊かな森は豊かな海を作ります」という合言葉があるそうです。実際、漁業関係で働いている私の父も木を植えるにいったことがあるそうです。

他にも、イカナゴをとりすぎないように船の操漁時間の短縮や休漁日の設定をする取り組みをしているそうです。

このように、「きれいな海」と「豊かな海」は、はじめは同じ意味だと思つていたら調べたり聞いたりしていくと、違いが分かりました。海水浴や海の景色をみるのには、きれいな海が良いけれど、魚や人が生活していくうえで豊かな海のほうが良いと思いました。

調べたり聞いたりして、海の近くに住んでいても知らないことが沢山ありました。こんなにも色々なことをしてくれている人たちがいるんだなと感謝し、学びました。これから坊勢が豊かな海になるように何か協力していきたいです。

【絵画部門】

「ひょうご海の子作品展」の絵画部門で入選した皆さんをご紹介します。

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	多可町立中町北小学校	2	安平 悠真	市場へ行ったよ
明石市長賞	洲本市立洲本第二小学校	5	久保田弓月	今日も大漁だった
兵庫県教育長賞	淡路市立塩田小学校	2	大谷 采愛	大きくなってね。ヒラメさん
JF兵庫漁連会長賞	淡路市立塩田小学校	2	谷 錬	ヒラメさん もどってきてね
	明石市立朝霧小学校	5	江口 佳那	ひょうごの魚たくさんとれたよ!
JF兵庫女性連会長賞	明石市立大観小学校	6	水谷 宗太	のりがとれた!とれたぞ!!
	姫路市立八幡小学校	5	田中 凜	海でがんばる人たち
JFなぎさ信漁連理事長賞	明石市立高丘西小学校	1	吉川 未華	うみのさかな
	明石市立大観小学校	6	後藤 有紀	大漁
農林中央金庫大阪支店長賞	淡路市立塩田小学校	2	吉田莉依奈	ふねにのったよ
	明石市立大観小学校	6	田中 伶	今日もにぎわう漁港

※紙面の都合上、佳作は掲載しておりません。

＜兵庫県知事賞＞ 市場へ行ったよ 多可町立中町北小学校 2年 安平 悠真さん (表紙に掲載しています)



＜明石市長賞＞

今日も大漁だった

洲本市立洲本第二小学校 5年 久保田弓月さん

＜兵庫県教育長賞＞

大きくなってね。ヒラメさん

淡路市立塩田小学校 2年 大谷 采愛さん

○JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載! ([https://www.seat-sakana.net/uminoko\\_sakuhin/uminokokaiga\\_r3/](https://www.seat-sakana.net/uminoko_sakuhin/uminokokaiga_r3/)) (JF兵庫漁連)